

総合的な学習の時間

第9学年

竹原市立吉名学園

指導者 佐藤希美・中村裕子

吉名町に人を集めようプロジェクト

1 単元及び児童生徒の実態について

目標

- ◎「吉名町に人を集めようプロジェクト」を通して、地域の良さや課題に気づくとともに、人を呼び込むための企画やアピール方法を考え、実行する力を養う。
(ウ 課題を発見する力・企画する力 エ 活動を計画・推進する力)
- プレゼンテーションソフトを用いて相手に伝わる発表をする力を養う。(イ 技能 キ 表現する力)

第1 目標

- (1) 探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解するようにする。
- (2) 実社会や実生活の中から問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
- (3) 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。

単元について

本単元は、8学年で行った「商品開発プロジェクト～商品開発・販売を私たちの力で～」の学習を発展応用させた内容となっている。吉名町の人口が減っている現状を改善するために、更に吉名町に貢献できることはないかを考え、自分たちで地域貢献をするための方法や活動を計画・推進し、粘り強く課題に取り組む力を育成することを主なねらいとしている。

プロジェクトを進めていく上で、様々な課題に直面すると思われるが、どうすれば実現に近づくことができるのか、地域の方々の協力を得られるのか試行錯誤することで、ねらいとする力を育成することができる。また、企画を他者に発信する場を設けることで、ICT活用力やプレゼンテーション力も育成することができる。

単元の系統性

- 第3学年：地域のものや人について調べ、紹介する。
第7学年：地域の特産品じゃがいもを生産販売する。
第8学年：地域の特産物を使って商品を開発する。

他教科との関連

- 道徳科
・C (16)「稲村の火」余話

児童生徒の実態

本学級の生徒は、8年生のときに商品開発・販売を行っている。企画から販売までの一連の活動を行ったことで、自分たちで活動を計画・推進する力、挑戦する力、やり遂げる力などが育ちつつある。また、聞いている人にわかりやすく説明するためのプレゼンテーションの技術・表現も身に付いてきている。一方で、役割を最後まで全うできずに、人任せにする生徒や、物事を深く考えることを苦手な生徒もいる。今年度は地域の方々の依頼により「吉名町に人を集める」という規模の大きい取組を行うため、より一層、様々な視点から物事を考え、活動を推進したり、困難に直面したときにそれをどのように解決していくか考えたりする力が求められる。継続して課題解決に取り組ませていくことで、ねらいとする力の育成を図る必要がある。

2 指導について

(1) プロジェクト型学習

地域の方から「吉名町の人口が減っている」「吉名学園の児童生徒の数も減っている」という話があり、9年生の力を借りて何かできないかという依頼があった。そこで「吉名町に人を集めよう」という課題を設定し、吉名町の人口を増やすには、また、魅力的な町にするにはどうしたらよいか考え、提案、企画させる。「実現可能なのか」「費用はどうするのか」「実現させるためには何が必要なのか」等、たくさんの課題が出てくると予想される。その都度、自分達で対策を考えさせる。失敗や再挑戦を繰り返すことを通して、課題を発見する力、活動を計画・推進する力を高める。

(2) ICT活用

本単元では、主に一斉や個別の場面でICTを活用する。具体的には、電子黒板で写真や映像を映し出したり、プレゼンテーションソフトを活用し、企画の提案を行わせたりする。また、グループごとに作成したパワーポイントを共有し、修正作業を行う際にもICTを活用する。

(3) 思考スキル・シンキングツールの活用

PMI…吉名町の良い点や改善点などを出す際に用いる。お互いの発表を聞いて、良い点や改善点を指摘し合う際に用いる。

(4) SDGsの視点：11 住み続けられるまちづくりを

吉名町の人口が減っている現状を知り、生まれ故郷である吉名町のために自分たちにはできないか、地域の方々と協力してできないか考えさせ、企画をし、活動を計画・推進させることで、故郷を思う気持ちを高めると同時に、安心安全で住みやすい町づくりのために貢献させる。

3 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
①地域の良さや特徴をとらえている。 ②聞いている人に分かりやすいプレゼンテーションを行う技術が身につけている。 ③地域貢献のための企画力や計画を推進する力が身に付いている。	①地域貢献のために何ができるのか様々な視点から考え、判断し、案を出している。 ②聞いている人に伝えたいことが分かりやすいプレゼンテーションを行うために、画像や図、例などを効果的に取り入れている。 ③企画を実現させるために、様々な視点から物事を考え、判断し、疑問点や改善点を出している。	①地域貢献のために何ができるのか考え、積極的に案を出そうとしている。 ②聞いている人に分かりやすいプレゼンテーションを行うために工夫をしようとしている。 ③企画を実現させるために試行錯誤し、より良いものを提案しようと活動している。 ④他者の意見を聞いて自分たちの企画を振り返り、より良いものにしようとして再考・調整している。

4 学習指導計画と評価計画 (全 23 時間 本時 10/23 時間)

時	学習活動		ICT活用	シンキングツール	評価規準 (評価方法)
1 2	●本単元の課題を知る。 ・地域の方々から吉名町の人口が減っているので9年生で何かできないかと依頼を受ける。 ・PMIシートを用いて吉名町のよいところ・改善点などを考える。 ・吉名町に人を呼ぶための案を出し合う。 ・自分たちの力で実現できそうなものと不可能なものに分ける。 ・案をグルーピングする。	吉名町に人を集めようプロジェクト	一斉	PMIシート	ア①イ①ウ① (行動観察, 振り返り)
3 6	●企画を練る。 ・グループに分かれ、一人一人が企画書を作成する。 ・プレゼンテーションソフトを用いてプレゼンテーションの準備をする。 ・プレゼンテーションを行う。		個人		ア②イ②ウ② (行動観察, プレゼンテーション)
7 9	●再度企画を練る。 ・グループごとに再考し、細かい企画を練る。 ・試作をする。(動画・スタンプラリーシートなど)		協働		イ②③ (行動観察)
10 (本時)	●地域の方々にプレゼンテーションをするためのリハーサルを行い、投票してもらうことで改善点を考える。 ・実際の場面を想定して、発表者、地域の方役に分かれてリハーサルをし、質疑応答やそのやり取りを客観的に見る。先生方に投票してもらい、結果を分析する。 ・投票結果をもとに改善点やさらに工夫できることを話し合う。		一斉		イ③ウ④ (振り返り)
11 13	●プレゼンテーションを修正する。 ・前時に出た改善点や疑問点をもとにプレゼンテーションの修正を行う。 ・練習をする。		一斉		ウ④ (振り返り)
14	●地域の方々にプレゼンテーションを行う。 ・企画について試作品等を用いてプレゼンテーションする。 ・質疑応答をする。		一斉		ア②イ②ウ② (行動観察, プレゼンテーション)

15 く 22	●協議会の結果をもとに企画を実現していく。 ・協議会の結果を受け、自分たちの力で実現できそうなものは実現に向けて準備を始める。				イ③ウ③ (行動観察, 振り返り)
23	●振り返りをする。 ・プロジェクトを通して身に付いた力について考える。				ア③ (振り返り)

5 本時について

(1) 本時の目標: 地域の方々が「吉名に人が集まる取組だ」と納得し、協力したくなるようなプレゼンテーションになっているか評価・改善する。

(2) 本時の評価規準及びルーブリック

評価規準	S(期待以上)	A(十分満足できる)	B(概ね満足できる)	C(努力を要する)
企画を実現させるために、様々な視点から物事を考え、判断し、疑問点や改善点を出している。	企画を実現させるために疑問点や改善点に加え、代案を出すなどして、よりよい企画になるように考えている。	企画を実現させるために、疑問点や説得力のある意見を出している。	企画を実現させるために、改善点を出している。	企画を実現させるために、様々な視点から物事を考えることができず、疑問点や改善点を出すことができない。

(3) 学習の展開

学習活動	指導上の留意点(◇) (◆「努力を要する」状況と判断した生徒への指導の手だて)	評価規準 (評価方法)
1 これまでの活動を振り返る。 地域の方からのメッセージ動画を見る。	◇電子黒板にこれまでの活動の写真を映し出し、活動を振り返らせる。 ◇動画を見せることでより一層貢献するための意欲を高める。	
2 本時の課題を確認する。		
地域の方々が、「吉名に人が集まる取組だ」と納得し、協力したくなるようなプレゼンテーションになっているか評価・改善する。		
3 2つのブースに分かれ発表する。 聞く側のグループは司会者、地域の方役、気づきを記入する役に分かれてプレゼンテーションを評価する。 吉名学園の先生方にも地域の一員になったつもりで聞いてもらい、企画に「協力する」「協力しない」か投票してもらう。	◇発表の役割分担について説明する。一つのグループは発表、もう一つのグループは①地域の方役、②評価者に分かれて発表を聞く。 ◇先生方にも投票をしてもらうことを伝える。 ◇地域の人役は役にになりきらせ、課題や疑問点など質問を行わせる。 ◆質問の例を示す。 ◇評価者は、良かった点、改善点(アドバイス)、疑問点を付箋に書かせる。 良かった点→ピンク 改善点(アドバイス)→青 疑問点→黄色	企画を実現させるために、様々な視点から物事を考え、疑問点や改善案を出している。 (行動観察)
4 先生方に投票をしてもらう。		

<p>5 投票結果を見て、何が良かったのか、何が足りなかったのか考える。</p> <p>6 各班で、自分たちの発表を振り返り、地域の人たちが納得し協力したくなるようなプレゼンテーションにするためにこれから補足する取組を決める。</p> <p>7 班毎に気づきと、取組みを発表する。</p> <p>8 本時の学習の振り返りをする。</p>	<p>◇自分たちの投票結果を見て、何が良かったのか、何がいけなかったのかグループごとに考えさせ、ワークシートにまとめさせる。評価者や先生方に聞いてもよいと声をかける。</p> <p>◇グループごとに、具体的に計画する。</p>	<p>他者の意見を聞いて自分たちの企画振り返り、よいものにしようとして再考・調整している。 (振り返り)</p>
--	---	--

(4) 板書計画

目標	地域の方々、「吉名に人が集まる取組」だと納得し協力したくなるようなプレゼンテーションになっているか考える。		プロジェクトの目的		
			プロジェクトを通して吉名町に人を集めよう。		
これまでの取組の写真	投票結果	SNS 3 8	イベント 4 6	ボランティア 7 3	店 2 6
これまでの取組の写真	改善点				
	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の良さをもってアピールする。 ・吉名町にしかないことを入れる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・もっと細かいルールが必要。 ・コロナ対策はどうするか。 		

(5) 準備物

- 電子黒板
- 付箋, マグネット, ホワイトボード, マジック
- 映像教材 (地域の方々からの動画)
- 振り返りシート